

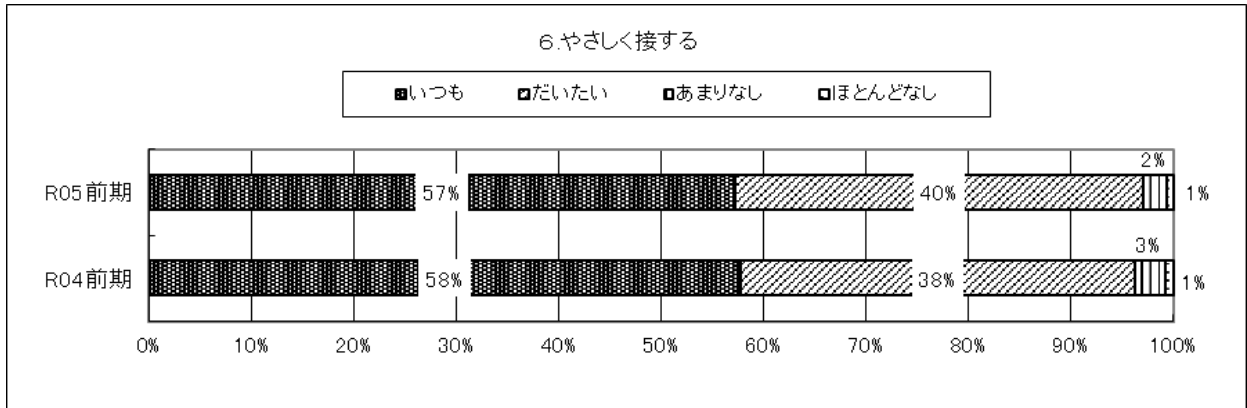
Ⅱ 思いやりの心

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント
相手の立場を思いやり、仲良く助け合って生活しようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	コロナ禍の影響で活動が中止されたり制限された中で、児童同士のつながりが減っていると思われるが、児童の他を思う心や考えは育っている。これからもさらに向上させて欲しい。高学年の望まし姿を低学年に見せて欲しい。様々な手段や取組をやらせることで思いやりにつかせる。継続させることが大切と思われる。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期(→年度)】</p> <p>①今年度、「実践課題」とそれに伴う「主な取組み」の一部を改訂した。2—(4)</p> <p>②今年度は、児童の提案を生かし、いっちょカード(友達のよさを伝えるカード)の全校実施を年4回(昨年度は3回)に増やした。送る相手を指定したり、「優しい言葉を使っている友達」と、テーマを設定したりするなどしたこともあり、仲良しの友達だけではなく、様々な友達のよさに目を向けられるようになってきた。</p> <p>③絆っこタイムでは、「地域貢献活動」として、年3回(暑中見舞い・感謝の手紙・年賀状)に分けて、地域の方にメッセージを書くことにした。この活動を通して、異学年交流での自己有用感を育て、地域の方とのつながりに目を向けさせる機会にしたいと考えている。</p> <p>④今年度、「やさしく接する」について子供の自己評価は昨年度とほぼ変わらない。一方、「思いやりのある行動」についての保護者の評価は、「やや不十分」の数値が微増している。コロナ禍が明けて、コミュニケーションの制限がなくなってきた今、改めて育てていきたいポイントである。道徳の時間や毎日の「今日のキラッとさん」の時間を活用して、望ましい姿を児童に考えさせていきたい。</p> <p>〈後期の取組〉</p> <p>①「今日のキラッとさん」として、頑張っていた友達や優しい行動をとっていた友達を、帰りの会で学級で紹介する活動を続けている。そこで、望ましい姿が発表されたときには、担任からいっちょカードを渡して書かせ、それを放送で紹介し、全校で共有していく。</p> <p>②これまでコロナ禍の影響で、縦割り班活動が減り、上級生として異学年交流の進め方やトラブル対応の仕方などを学べる機会が少なかった。担任の事前指導に加え、縦割り班担当の教員がフォローをすることで、高学年の自己有用感を育てていきたい。また、同時に各学年担任の事前事後指導を充実させ、下級生のフォローアップも育てていく。</p>			
	<p>【年度(→次年度)】</p>			

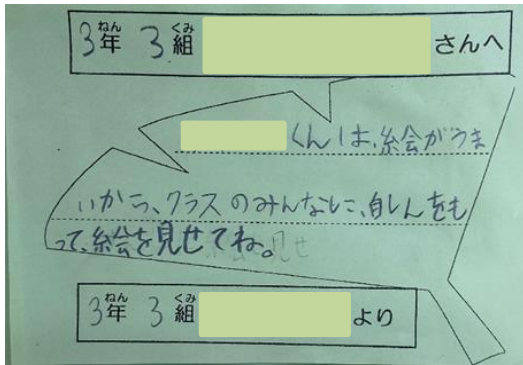
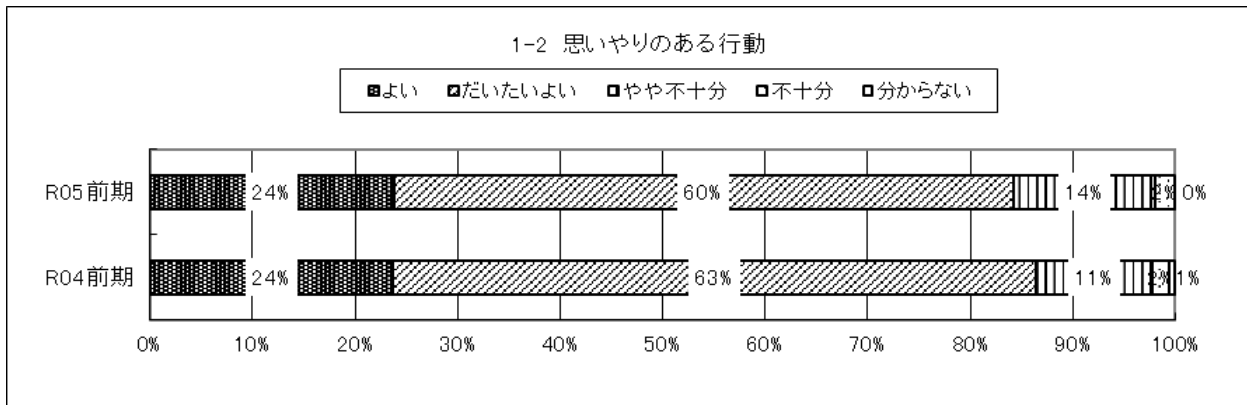
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 一人一人のよさの発揮	(4)一人一人に居場所と活躍の場のある学級	学級の係活動、当番活動の充実	3	
		学級における自己肯定感・自己有用感を高める取組		
4 集団生活・集団活動	(5)他とかがわる諸活動の充実した学校	児童会活動・クラブ活動における積極的な異学年交流	3	
		縦割り班活動の充実(絆っこタイム等)		

※学校教育アンケートから

(児童)



(保護者)



いちいちカードを1～3階の各階廊下に掲示している。放送でも紹介し、全校で共有した。

《クラブ活動》

全部で10種類のクラブがあり、その中で3つのクラブで地域の方に、ご指導してもらっている。児童は、専門の先生に教えてもらえることをとても楽しみにしており、自分の知識や技術を伸ばそうと前向きに取り組んでいる。

- 手芸クラブ・・・2名
- 野鳥観察クラブ・・・1名
- ポッチャクラブ・・・市スポーツ振興課の方々

毎年、児童の興味・関心に合わせて、外部指導者を招いて実施している。これからも、地域の方の力や特色を生かしたクラブ活動をしていきたい。



縦割り班で活動する絆っ子タイム。班長がリーダーシップをとって、地域の方へお手紙を書いている。



地域の方へのお手紙。季節に合わせた挨拶や日頃の感謝の気持ちを綴っている。